

2つの本の読み方

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。私は、いろいろな方々にお会いする機会が時々あり、多くの方に「開倫塾の時間」を聴いているよと言っていただき、とても嬉しく思っています。どうか今日も聴いていただくと有り難いです。
2. この「開倫塾の時間」は勉強の仕方をお話する番組ですので、今日は、本の読み方についてお話しします。本の読み方はいろいろあると思いますが、同じ著者、作者の本を読むやり方と、関連した本を読んでいくというやり方の、2つの本の読み方についてお話をさせていただきます。
3. まずは、同じ著者の本を読むことについてです。私は福沢諭吉先生が好きで、時々読んでいます。福沢諭吉先生は「学問のすゝめ」という本をお書きになりました。そのほかに、自分の一生を書いた伝記「福翁自伝」や、お考えになった様々なことをまとめた「文明論之概略」という本もお書きになりました。明治の思想家であり、慶應義塾の創始者である福沢諭吉先生はたくさんのお書きになっています。その中から、福沢諭吉先生であれば、「学問のすゝめ」と「福翁自伝」、「文明論之概略」という3冊の本を読むことを私はお勧めします。このように、同じ人が書いた代表的な本を何冊か選んで読むというのは、1つの本の読み方だと思います。
4. 「学問のすゝめ」は有名ですので、読んだことがある方も多いと思います。出だしの部分は、『天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず』と言えり、「万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤^{きせん}上下の差別なく」と、みんな同じように生まれたとあります。ただ、世の中を見渡してみますと、賢き人もいますし、少し言いにくいですが、愚かな人もいます。また、いろいろな仕事をする方やいろいろな働きをする方もいます。それがよい悪いということはありません。しかし、なぜ人間にはいろいろなことをする方やそうでない方がいるのか。「人学ばざれば智なし、智なきものは愚人なり」という言葉があります。人は学ばなければ知恵はない。「智なきもの」というのは、昔の言い方なので極端ですが、「愚かな人」という意味です。「賢人と愚人との別は、学ぶと学ばざるとによりてできるものである」。勉強するかしないかで、賢くなるかそうでないかが決まる。それならば勉強しましょうと、このような考え方が明治維新のころにありました。そして、当時の人たちは、そのような考え方をもち勉強を進めたということです。
5. 「福翁自伝」というのは、自分の一生を書いた本です。下級武士の子どもであった福沢諭吉が、現在の大阪大学医学部のもとである適塾で勉強したこと、その後東京に出て様々なことをして、慶

応義塾をつくったことなどが書いてあります。

6. そして、「文明論之概略」には、文明とは何かという自分の考えがまとまって述べてあります。このように、1人の作者の本をじっくりと読んで、「この方はこういう考え方をしていたんだ」と知ることは1つの本の読み方です。
7. もう1つの本の読み方は、関連したものを読んでいくというやり方です。例えば、中国の古典に「論語」というのがあります。「論語」は、孔子の教えを書いたもので、全部で499章あります。その「論語」を深めたのが「大学」や「中庸」です。そのほかに、孔子の教えを深めた方が孟子です。中国の古典には「論語」と「孟子」という2つの大きなものがあります。その1つの「孟子」は、孔子の一番弟子だと言われる孟子が自分の考えをまとめたものです。かなりの理想主義で、極端な考え方をしていました。
8. 例えば、王様と話をしていて、「刃^{やいば}をもって民を殺すのと悪い政治を行って民を死に至らしめるのは違いがあるのか、相手を殺すということにおいてどちらも違いはないのではないか」と王様に極端な問い方をします。また、よい王様でなければ王様は倒しても構わない、自分がよいと思ったら王様の代わりにその国を治めても構わない。孟子は、そのようなことをおっしゃる方でした。
9. 皆さんの中には、大河ドラマ「花燃ゆ」で吉田松陰の生き方や長州藩の様々な方の生き方、明治維新の志を高くした方の生き方などを、番組を通して勉強なさっている方もいると思います。当時の皆さんは「孟子」を読んでいたもので、理想に走り、よくない行いをする王様がいたら倒しても構わないと思い、幕府を倒したり革命を起こしたりします。このようなことも時には大事かもしれませんが、しかし、ただ極端に走ってしまうと、テロリズムや殺戮^{きつりく}に至って大変だということが出たのが、「大学」や「中庸」という考えです。
10. 四書は、「論語」、「孟子」、「大学」、「中庸」という中国の四つの書で、大事な古典だと言われています。「中庸」は、少し元に戻して穏やかな形でいこうというもので、バランスが取れています。中国の方の考えも素晴らしいです。ですから、お話したような形で「論語」を読んだら「孟子」を読む、そして、極端な考えに走りそうだったら「大学」や「中庸」の本を読んで元に戻す。このような読み方も、本の読み方としては大事ではないかと思えます。
11. 以上のように、例えば福沢諭吉先生であれば「学問のすゝめ」、「福翁自伝」、「文明論之概略」と同じ著者の本を読む読み方と、「論語」を読んだら「孟子」、「大学」や「中庸」など関連したものを読む読み方の2つの読み方について今日はお話しました。ぜひ皆さんにもお勧めしたいと思えます。「論語」だけでなく、「孟子」や「大学」、「中庸」という本もぜひ読んでみてください。現代語訳を読むだけでもとても勉強になりますよ。